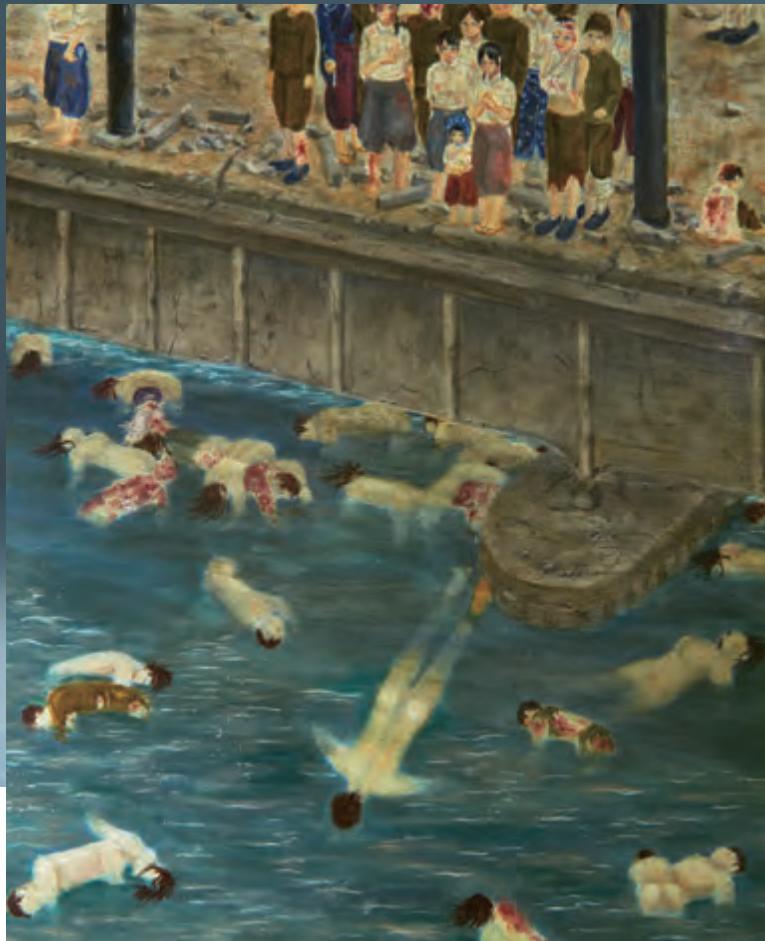


第19回

非戦・平和展

悲一人間、この恐ろしき者よ—

テーマ



「御幸橋より 波に漂う屍」

石田 菜々子
(広島市立基町高等学校69回生)
広島平和記念資料館 所蔵

期間 2019年3月28日(木)～5月15日(水) 9時～16時

会場 真宗大谷派(東本願寺) 参拝接待所ギャラリー1階 京都市下京区
鳥丸通七条上る

内容 •あの日のヒロシマを描き継ぐ「原爆の絵」—被爆体験証言者と高校生の共同制作

- 映像展示「あの日のヒロシマを描き継ぐ」(制作:真宗大谷派全戦プロジェクト)
- 非核非戦の願い—山陽教区、長崎教区の取り組みを通して
- 仰せになきことを仰せとして—近代真宗大谷派の戦争への歩み

全戦没者追弔法会

シンポジウム

日時 4月2日(火)
10時～12時30分

会場 真宗本廟御影堂

記念講演 高木静子氏
(元大阪市原爆被害者の会事務局長、語り部)

講師 講題 「ヒロシマ被爆者として
生きつづけて」

日時 4月2日(火)
14時～16時30分(開場13時)

会場 真宗本廟視聴覚ホール(参拝接待所地下2階)

テーマ 「悲一人間、この恐ろしき者よ—」

パネリスト 高木静子氏
平野伸人氏(平和活動支援センター所長、被爆2世)
石田菜々子氏(広島市立基町高等学校卒業生)
玉光順正氏(山陽教区第7組光明寺)

主催／お問い合わせ
真宗大谷派(東本願寺)解放運動推進本部
〒600-8164 京都市下京区上柳町199
TEL 075-371-9247

入場無料・聴講無料

ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

浄土真宗の教えに関する様々な情報を発信しています。

浄土真宗
ドットインコ

<http://jodo-shinshu.info/>

浄土真宗ドットインフォ

検索



真宗大谷派
東本願寺
nigashihOnganji
Shishu Otani-ha

「あの日のヒロシマを 描き継ぐ「原爆の絵」 —被爆体験証言者と 高校生の共同制作

1945年8月6日8時15分、広島に投下された原子爆弾。今回、展示されている絵画は、広島で実際に起きた光景が描かれています。この絵を描いたのは、被爆の体験をした証言者と広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの生徒たちです。広島平和記念資料館からの依頼を受けて、証言者が語る当時の光景を、高校生が絵に描く活動が、2007年から取り組まれています。証言者と高校生が共同で取り組む「原爆の絵」は、戦争の悲惨さや恐ろしさを、私たちに鮮明に伝えてくれます。そこには、思い出すのも辛い体験を語る証言者の決意と、その話を聞き現実と向き合うことで苦しい思いを懐きながらも、それを伝えたいという高校生の意志がありました。だからこそ、その絵画は、時代をこえて、原爆とは何か、戦争とは何か、平和とは何かと呼びかけてくるように思います。それこそが、戦争でいのち奪われた方々の声なき声ではないでしょうか。

記念講演
講師からの
メッセージ

「ヒロシマ被爆者として 生きつづけて」

私は、1928(昭和3)年、大阪に生まれ大阪に育ちました。小学校に入るまでは絵ばかり書いておりました。

小学校へ行き出すと、自然観察が大好きで微生物への興味から、やがてフランスのパストール研究所で学びたいと思うようになりました。

しかし、当時の日本に女性が大学の理学部へ入る道はありませんでした。太平洋戦争中、男子教員の不足が深刻化し、1945(昭和20)年、勅令によって女子高等師範学校が作られました。新設された広島女子高等師範学校に生物学科があると知り、広島で学ぶことになりました。

しかし、8月6日、原爆で校舎の下敷になり、顔面、左半身に無数のガラス片が刺さり、顔の傷は、赤いケロイドになりました。その私の顔を見て驚いて逃げていった子どもたちのことが忘れられず、教員免許は取ったものの…教師になることはできな

いと思いました。

その後、大阪大学医学部の実験助手として細菌学の研究室に入りました。研究室にいた男性と縁あって結婚し子どもが生まれてからは、被爆者相談の活動を始め、後に「大阪市原爆被害者の会」の事務局長をつとめました。さらに国連で核兵器禁止を訴え、国際軍縮会議では女性の目で捉えた被爆の実態を訴えてきました。現在は、被爆者としての体験を若い人たちに語り継ぐため、語り部として活動しています。

90歳になりましたが、非核平和をめざして語りつづけます。



高木 静子

1928年大阪府生まれ。広島女子高等師範学校在学中に被爆。元大阪市原爆被害者の会事務局長。現在は、自身の被爆体験を語り継ぐため、語り部として活動している。